

大学生における“親友”

－願望とイメージ、現実の比較－

坂本龍星

(広島国際大学大学院健康科学研究科)

問題と目的

親友関係とは、互いの感情や考えを包み隠さず示し合い分かち合い、互いの幸福のための献身的な努力があり、親密性 (intimacy) の感情体験がある間柄のことを指す (Chapman & Chapman, 1980)。しかし、大学生を対象に“親友”関係の様相そのものを調査した研究はほとんどみられていない。また、吉岡 (2001) は、中・高校生の友人関係の様相をたずねる調査において、理想的な友人関係を問われた際に、自身の願望を答える者と社会的に望ましい関係を答える者がいたことを報告している (吉岡, 2002)。本研究では、大学生の親友関係の様相について、理想と現実の観点から調査した。その際、理想を個人の願望と社会的に望ましいイメージの2つに分けて設定することとした。

本研究の第一の目的は、大学生が親友とありたい関係 (願望) とあるべき関係 (イメージ)、今ある関係 (現実) の3つの関係を比較することであった。第二の目的は、願望とイメージという2つの理想水準で、異なった捉え方がなされるかを検討することであった。

方法

調査対象者: 大学生 134 名 (M: 78 名, F: 56 名)

調査時期: 2023 年 11 月

手続き: 調査は集合一斉調査で実施した。親友の数は、0~4 人以上の選択式で回答を求めた。親友関係の様相は、「友人関係測定尺度 (吉岡, 2001) (5 因子/27 項目) を使用し、親友関係 (願望とイメージ, 現実) について 6 件法で回答を求めた。

分析方法: 統計ソフト jamovi と SPSS を用いた。

結果

親友の数: 最も多かった回答は 4 人以上 (30.6%) で、次いで 2 人 (26.9%)、1 人 (20.9%)、3 人 (17.9%)、0 人 (3.7%) と続いた。また、親友が 1 人の者と 4 人以上いる者との間で反復測定分散分析を行った。その結果、願望とイメージ、現実のどの関係においても、親友の数の多寡で有意な差はなかった。

性差: 男性と女性とで多変量反復分散分析を行った。その結果、願望とイメージ、現実のどの関係

においても男女で有意な差はなかった。

親友関係の様相: 願望とイメージ、現実の3つの親友関係を比較するため、反復測定分散分析を行った。その結果、「自己開示・信頼」「深い関与・関心」「共通」「親密」「切磋琢磨」の5つのうち、「切磋琢磨」を除く4つの因子で有意な差がみられた (Table 1)。「自己開示・信頼」では、願望が現実より高かった。「深い関与・関心」では、イメージが願望より高かった。「共通」では、イメージが願望と現実より高かった。「親密」では、イメージが最も高く、次いで願望が現実よりも高かった。

Table 1. 親友関係 (願望, イメージ, 現実) の比較

	M (SD)			F	p	p (事後検定)
	願望	イメージ	現実			
I 「自己開示・信頼」	5.1 (1.0)	5.1 (1.5)	5.0 (1.1)	5.33	**	願望>現実
II 「深い関与・関心」	5.0 (1.0)	5.1 (1.0)	4.9 (1.1)	4.22	*	イメージ>願望
III 「共通」	4.5 (1.3)	4.7 (1.1)	4.4 (1.4)	10.20	***	イメージ>願望, 現実
IV 「親密」	4.3 (1.4)	4.7 (1.3)	4.0 (1.4)	10.60	***	イメージ>願望>現実
V 「切磋琢磨」	5.0 (1.0)	5.0 (1.0)	4.9 (1.1)	1.35	n.s.	

***p<.001 **p<.01 *p<.05

考察

親友の数について、最も多かった「4人以上」と「3人」で、全体の約5割を占めていた。青少年研究会が10年おきに実施する20~29歳対象の調査では、親友の平均人数は3~4人であり (福重, 2016; 浅野, 2024)、本研究でもそれらと同等の結果となった。

親友関係の様相について、願望が現実を上回ったのは「自己開示・信頼」と「親密」の2つで、イメージが願望を上回っていたのは「深い関与・関心」「共通」「親密」の3つであった。大学生は互いに「素直な感情を示す」「相談し合う」といった、互恵的で情緒的なつながりを親友関係に望んでいると考えられた。一方で、「プレゼントをくれる」「いつも一緒に行動する」といった仲が良いことを確認するようなつきあい方や、「考え方/感じ方/性格が似ている」「趣味/好みの一致」といった同質性のある関係が、社会的に望ましい親友関係としてイメージされていることが明らかとなった。以上から、大学生は自身が望む関係と社会的に望ましい関係のイメージとで、親友関係の理想が異なることが示唆された。したがって、今後友人関係とりわけ親友関係の理想を問う際は、願望とイメージとで別々に捉える必要があると考えられた。